



探訪 長門のいしおみ ⑰

霊鳥白雉の碑 はくち

真木の地には『日本書紀』から派生した「白雉伝説」があり、昭和四十年（一九六五）三月、大蔵社の境内にこの碑が築造された。碑の主石を深川富士（花尾山）に見立て、大きな石を幾つも組み合わせた独特な石碑である。

碑の上部に菊花の紋章、中央に白雉（白いきじ）の像が浮彫りされ、その下に「霊鳥白雉の碑」と横書きされている。「伝説」を伝える碑文は、石組みの下部に漢文体で刻んである。

真木の白雉伝説のもとになった『日本書紀』の記述の要旨はつぎのとおり。



孝徳天皇の御代の白雉元年（大化六年）

二月、長門（古称は穴戸）の麻山で白い雉を捕らえた。国司の草壁連醜経は、二月にこの雉を朝廷に献上した。朝廷ではこれを吉兆として大赦を行い、元号を「大化」から「白雉」に改めた。そして醜経に多くの褒賞を与え、長門の国の税も三年間免除した。



長門の国に「おの」の地名が多いが、この記述のなかでは、麻山（おの）の位置はどこか特定されていない。

真木の白雉伝説は、花尾山のふもとに残る古い地名「一ノ小野」（市ノ尾）、「二ノ小野」、「山小野」（山小根）などの、「おの」にちなんだ地名から生じたものであるろう。

なお、朝廷に献上した白雉は、のちに元の麻山に戻され、真木・台の「着ノ森」でその生を終えたという伝えもある。同森に、この伝説による「瑞鳥終焉之霊地」の碑が立っている。

（寄稿・長門市郷土文化研究会）



火災時の問い合わせは

☎ 22-1414

長門地区消防本部・中央消防署

☎ 22-3111

謹賀新年

新春を迎え、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

本年も、災害のない明るい住みよい町づくりに職員一同一層の努力をする決意でありますので、皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成12年度全国統一防火標語

『火をつけた あなたの責任 最後まで』